

9/7(土) まいど！ 倫理号です。合同がやって来球。松山にも来子カモ？
目の前の改革に喜んで打ち込む... 境遇を受け入れよう。

草々運ぶアホ-鳥

2022. 9. 17~9. 23

今週の

倫理

9月のテーマ | 境遇を受け入れる

1299号

私たちの最も身近な存在である肉体。世界に約八十億も存在する一人ひとりの身体。肉体には、私たちの知らない偉大なる力が潜みます。神秘に満ちているのです。常識や巷にあふれる情報のみで肉体の持つ可能性を限定するのは、実にもったいないことです。睡眠について、倫理運動の創始者・丸山敏雄は次のように指摘しています。

「馴れてくると、眠りというものは、何時間とらねばいけないといったような、そんなきゆうくつなものではなくて、与えられた時間だけ、ぐっすり眠れば、すっかり疲れが無くなるようになっていきます」

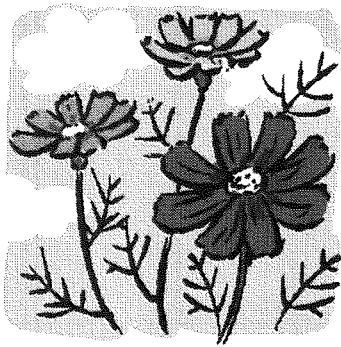
〔清き耳〕丸山敏雄著

私たちは普段、「明日の朝は早いから夜は早めに寝よう」とか「昨夜は何時に寝たから」と睡眠時間を気にしてしまいがちです。しかし、与えられたその日の夜の状況がいかなる環境だったとしても、先に引用した文章のように受け入れたいものです。受け止め方次第で、常識に縛られることなく、より自然で自由な生活を送ることが出来るようになりますと共に、まだ知らない身体の有する高い能力を実感できると、さらに生活の質も向上するはずですよ。

また、丸山敏雄は次のようにも述べています。

「病気になるってからでも、出来る仕事を心配なく働きつづけていたら、それ以上悪くならないばかりでなく、次第によくなくなってくるものである」

〔万人幸福の葉〕丸山敏雄著



病気になった時が 肉体の神秘と可能性を知る好機

丸山敏雄は、精神論で乗り切れと言っているのではありません。働く心になった時、その心に呼応するように、肉体の内在的な力が発揮されるのです。目の前の仕事に喜んで打ち込むことが、肉体の神秘に出合うきっかけであり、解決の鍵ともなるのです。しかし、身体は時に悲鳴を上げることがあります。それは病気です。不自然かつ無理な生活を重ねると、医学や医療に頼らなければならぬことになってしまいうこともあるでしょう。

経営者のN氏は、心筋梗塞を起こし、生死の境をさまよいました。ただちに入院となり、会社の指揮も取れない境遇に追い込まれたのです。

氏は、肉体の構造上の関係性と人間関係の関係性が相関するのではないかといった倫理生活上のアドバイスを聞き入れました。全身に酸素や栄養、そして体温を届ける身体の中の臓器は心臓です。その心筋に血液を運ぶ血管が冠動脈です。どうして、その栄養血管が狭くなったり(狭心症)、血栓で塞がれてしまったり(心筋梗塞)するのか不思議でなりません。ですが、支え合う相互の関係性によって肉体組織は健全さを保っています。病気を通して、その事実を知った氏は、自分を支えてくれている社員や家族に対する猛烈な感謝を深めるに至りました。その後、思いがけない程のスピードで現場復帰を果たしたそうです。

「あなたの体を、無限の希望でつみましよう」
〔万人幸福の葉〕丸山敏雄著